

病害虫発生予察特殊報第 2 号

病 名 スイカ黒点根腐病
病原菌名 *Monosporascus cannonballus* Pollack et Uecker

1 発生経過

平成 9 年、波田町を中心としたすいか産地で、収穫直前になって急速に株全体が萎凋する障害が発生した。発病により枯死した株の根部を掘り上げてみると、多数の小黒点の着生が観察された。本年もハウス栽培のすいかほ場で初発を確認し、その後、発生は露地普通作型にも及んだ。発生地域は波田町を中心に松本市、山形村においても見られ、発生面積は、発病程度の軽いほ場から多発ほ場まで合わせると約 20ha に達した。

発病した株は、とうがん台を用いたものに多かったが、ゆうがお台でも発生が見られた。

2 病原菌の同定

収穫期が近づいて、急速に萎凋すること、発症後枯死した株の根に小黒点（直径 0.3～0.5mm）の着生が観察されることから黒点根腐病が疑われた。

根部に形成された小黒点から菌を分離したところ、同一菌のみ分離され、培地上で同じ小黒点を形成した。この小黒点は子のう殻で、中に本病原菌と同じ子のうと子のう胞子の形成を確認した。

さらに、分離した菌をとうがん及びゆうがおに接種したところ、病徴が再現され、接種した菌が再分離されたことから、*Monosporascus cannonballus* によるスイカ黒点根腐病であると診断された。

なお、本病は平成 3 年千葉県において、ゆうがお台すいかで初発生の報告があった病害である。とうがんに対しては、接種試験で病原性のあることが報告されているが、とうがん台すいかで自然発生が見られたのは今回が最初である。

3 病徴と診断

本病は、収穫期が近づくまで無病徴あるいは日中軽いしおれを呈する程度に進むため、発病に気づくのが遅れる。収穫 2 週間前頃から病徴は顕著になり、暑い晴天の日が続くと昼間萎凋し、夕方には回復するという状態を繰り返しながら次第に株全体が衰弱し、収穫不能となる。激しく発病すると急速に萎凋して枯死する場合が多い。

診断の目安となる根部の小黒点は病勢がかなり進んだ段階でないと観察されないことが多い。発病初期は、根部の一部が飴色になっているのが観察される。

4 防除対策

- (1) 本病に対する登録薬剤はないが土壌病害であることから、つる割病防除に準じた土壌消毒を実施する。
- (2) 着果量が多かったり、地温が高いと発病が助長されるので、過剰着果を避け地温を低く管理する。
- (3) 多発ほ場では連作をやめ、少なくとも 3 年以上、できれば 5 年以上（メロンでは 5 年間室内に保存した発病ほ場の土壌で発病したという報告がある）はウリ科植物の作付けを避ける。
- (4) 本病に対しては、カボチャ台木に耐病性があるという報告がある。